まちの話題

たくさんの甘い実り ブルーベリー 摘み取り体験

6月20日、大屋町加保にある農園「木の実の森」で市内の小学生たちがブルーベリーの摘み取り体験を楽しみました。

これは養父市生涯学習センターが体験学習の一環として行ったもので、小学生や保護者ら約30人が参加しました。

参加した小学生らは、摘みたての実をそのまま食べたり、生クリームとともにパンに挟んで味わっていました。

「冷たいヨーグルトに入れて食べたら、おいしかった」と笑顔で話していました。

ブルーベリーの実を摘み取り楽しむ子どもたち

八鹿高校生が平和への願いをこめて「アンネのばら」を植樹

平和のシンボルとして知られる「アンネのバラ」と第二次世界大戦後、平和を願って名付けられた「ピース」という品種バラの植樹が、6月18日、県立八鹿高校で行われました。

これらのバラは、朝来市の市民グループより贈られたもので、生徒会執行部のメンバー約20人が校舎前の中庭にオレンジ色の花を付けた苗を植樹しました。

生徒会長の南光文香（2年生）さんは「アンネの思いが表れているようなきれいな花を、みんなで大切に育てながら、平和について考えていきたい」と話していました。

「アンネのバラ」を植樹する八鹿高校の生徒たち

ボランティアで「市内不法投棄ごみ」を回収

6月4日、兵庫県産業廃棄物協会但馬支部に所属する業者と養父市保健衛生推進協議会などの団体が、ボランティアで不法投棄されたごみの回収活動を市内3ケ所（八鹿町今滝、大屋町明延、轟）で行いました。

この日、回収されたごみの量は、2トンダンプ約15台分で、可燃ごみ1，310キロ、不燃ごみ3，380キロの合わせて4，690キロごみの回収することができました。

今後は、不法投棄が繰り返されないよう、定期的にパトロールを実施していく予定です。

不法投棄ごみの回収作業

心あたたまるアート作品が集合！

6月27日から7月5日にかけて、大屋を拠点に創作活動を営む芸術家による合同作品展「うちげぇのアートおおや」が、大屋町大杉のふるさと交流の家「いろり」などの会場で開催されました。

自分たちの作品を知ってもらおうと始まったこの作品展も、今年で14回目をむかえました。今回の作品展に出展したのは、上山とみこ（陶）、大越元一（絵画）、近藤研秀（書）、田中今子（絵画）、前田華汀（書）、吉井周平（陶）、吉井直行（陶）、松田一戯（木彫）、松田京子（木彫）、松田揭三（木工）の10人です。

同作品展は、市外からの来訪者も多く、神戸から訪れた人は「知人からの紹介で訪ねてみました。いいものを見れて感動しています」と感想を話してくれました。

訪れた人たちは、古民家の中に展示されている作品たちを鑑賞しながら、大杉地区の散策も楽しみました。

芸術家の説明を聞きながら作品鑑賞する来場者

大地の恵を肌で感じる!! ウィザスナビ農業系講座

6月24日、ウィザスナビ高校で体験学習の一環として初めての「農業系講座」が校舎近隣の畑で開かれ、同校の生徒10人が参加し大豆の植え付けやサラダ菜などの収穫を行いました。

同講座は、同校がカリキュラムの一環として、土のあたたかさに触れ、働く喜びや農業の大切さ、楽しさを知ってもらうために取り入れているものです。

この日、生徒達は、講師として迎えた地元農家3人から苗の植え方などの指導を受け、額から汗を流しながら植え付けを行いました。

植え付けが終わると別の畑に移動し、今年の春に植えられたキュウリやミニトマトなどの収穫を行い、もぎたての野菜を食べて「おいしいっ！、うまいっ!!」と新鮮な野菜の味に感動していました。

大豆の苗の植え付けをする生徒たち

拝啓　市民の皆様

新しいまちに大きな希望を託してスタートを切ったわけですが、平成16年の台風23号の大災害、初代佐々木市長の急逝、財政危機、急速に進む高齢化と人口減少、世界同時不況による景気の低迷等、相次いで大変困難な問題に見舞われました。本市は、市民の皆さんの温かい理解と協力のもと、一体となってこれらの試練に挑み、早期の復旧復興、財政破綻の回避、国・県と一体になった景気対策に一定の成果を挙げてきました。今後は、養父市行政が抱える最大の課題である少子化、高齢化、人口減少の対策に重点を移していかねばならないと考えています。

これらの問題は、旧町時代からの懸案であり、本市存立の基盤そのものに関わる根幹的な課題であります。幸い本市には、すばらしい市民（人材）と豊かな自然と歴史が育んだ観光資源があります。これらを活かし、まちづくりの主体者である市民と市行政が共に考え、共に行動し、養父市らしい、活力ある地域づくりを進めることが必要です。このために、今年度は2つの政策課題を設けています。

その一つが、地域自治組織の設立です。これは、市民の創意と工夫、官民協働による地域の総合力を発揮するための効果的な実現方策であると考えており、なるべく早く全市的に小学校区を単位として展開したいと考えています。もう一つは、観光交流150万人構想の樹立です。北近畿豊岡自動車道の開通を視野に据えた上で、明延や中瀬の鉱山遺跡の世界遺産登録を目標に置き、市内にある豊富な観光資源の魅力を再発見し、観光交流人口150万人の実現への筋道を明らかにするものです。乗り越えなければならない高い障害は多くあろうかとも考えられますが、県や近隣市町等と連携し、将来的に養父市の目指すべき明るい大きな夢として描いていきます。

市長　広瀬　栄